

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)～(8)は必ず記入してください。(9)～(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1)担当支部:	広島支部	(2)記載者氏名:	佐々木 弘磨	会員番号:	12693	事務局整理記入欄	広島 - 109
分水嶺区分	W5675稜線944m地点～W568平家ヶ岳		(3)山行日:	2006年	3月	26日	(4)天候 晴

(5)参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

池本喜浩	11953	田村貴代子	HF0510				
兼森志郎	11958	八幡紀子	14140				
兼森路子	12671	宮本由美子	広島三峰会				
松島宏	13293	前垣壽男	12693				
		佐々木弘磨	12693				
計			9名	計			名

(6)山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	林道車止め点河内川～分水嶺稜線～平家ヶ岳(この地点より引き返す)～分水嶺稜線～河内川林道車止め点～六日市I/C～広島												
アプローチ:	高尻川キャンプ場(幕営地)～六日市 I / C～河内川林道車止め点												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)～(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	内川林道車止め点	周防広瀬	131	54	23.20	34	19	52.12	431	9:40		A-2	(8), (9), (10)
	河内川二俣出合	周防広瀬	131	54	9.59	34	19	26.18	606	10:45		B-2	(8), (9), (10)
分水嶺到達点W5675	分水嶺稜線	周防広瀬	131	54	19.27	34	19	7.05	944	12:30	12:40	B-3	(8), (9), (10)
	ワル谷分岐	周防広瀬	131	54	14.96	34	19	2.74	951	12:45		B-3	(8), (9), (10)
W568	W568平家ヶ岳	周防広瀬	131	54	7.17	34	18	54.89	1,057	13:35	14:40	B-3	(8), (9), (10)
	(この地点から引き返す)												
	ワル谷分岐	周防広瀬	131	54	14.96	34	19	2.74	951			B-3	(8), (9), (10)
分水嶺離別点W5675	分水嶺稜線	周防広瀬	131	54	19.27	34	19	7.05	944	15:20		B-3	(8), (9), (10)
	河内川二俣出合	周防広瀬	131	54	9.59	34	19	26.18	606	15:55		B-2	(8), (9), (10)
歩行終了点	内川林道車止め点	周防広瀬	131	54	23.20	34	19	52.12	431	16:40		A-2	(8), (9), (10)
総歩行時間(休憩時間を除く):											6時間45分		
総所要時間													

(7)三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを記入してください	点名	等級	方位	保存状況	特記事項
W568	平家ヶ岳	2	真南	良好	

(8)人工施設の現況および地形図との相違点

W568平家ヶ岳直下に有名な平家屋敷跡がある。壇ノ浦合戦に敗れた平家一門の松前一族は、源氏の追手から逃れてこの地(木谷川の源流)に住み農耕、木地師で暮らしたと言う。

(9)水および植生に関連した特記事項

W568平家ヶ岳北東の分水嶺は、北側に高津川水系支流の河内川、東側に錦川水系支流の尾茂川、南側に錦川水系支流の木谷川に挟まれている。W568平家ヶ岳頂上には檜が僅かあるが、一部分で展望は良い。北東側には若木のブナ林が背丈ほどの笹敷に広がる

(10)その他の特記事項

注連川(しめかわ)集落には「平家ヶ岳登山口」と書いた看板があるが、「むいかいちの山々」のチラシでは、登山道は未整理だから錦町側の平家屋敷跡よりの登山を奨めている。現在、台風による交通止めで平家屋敷側から平家ヶ岳には登れない。そこで、高津川水系支流の河内川から取り付く事にした。途中、ワサビ小屋で登路を聞くも上部には無いと言う。どうやら途中で見失ったらしい。二俣出合では本流の滝を避け支流を詰めた後、笹の茂る支尾根を登り2005年10月23日(山行報告書 広島 - 101)に一部踏査で終了した分水嶺稜線に合流する。枯れ笹部を過ぎワル谷分岐から急登の大藪に苦しめられるが、ついに13時35分、平家ヶ岳頂上に着き分水嶺踏査を終える。勿論、下りも厳しいと予想したので、早めに下降に移る。下りは谷を避け、両サイド切り立つ支尾根を慎重に下り、無事に二俣出合に着き安堵する。更にワサビ小屋を過ぎ最後の渡渉地点で、前垣さんボツカの冷たい麦茶で乾杯。それにしても4.6回/月も2年間良く継続したものだ。460kmの踏査距離を事故無く踏査された参加者の皆さんに感謝します。

(11)写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
W568:平家ヶ岳 祝う分水嶺踏査完踏 W568D:ワル谷分岐付近に行く